

## 浦間茶臼山古墳と古墳の出現

安 川 満

### 【講座の概要】

#### 1. 浦間茶臼山古墳の概要

所在地：岡山市東区浦間

墳 形：前方後円墳（後円部 3 段築成？）

規 模：墳長約 140 m、後円部径約 80 m、後円部高約 14 m、前方部長約 60 m

主体部：竪穴式石槨（長約 7 m、幅約 1.2 m）、割竹形木棺

出土物：特殊器台形埴輪、細線式獣帯鏡、銅鏃 19、鉄鏃 42、鉄刀、鉄剣、鎌、鍬先、鑿、錐、鉄斧、鉈、刀子、銚、ヤス、小札状鉄板

（伝）朱、鏡、勾玉、銅鏃（20 数点）、鉄器多数

調査等：1900（明治 30）年頃 石槨盗掘される。多数の遺物が出土という。

1969（昭和 44）年頃 宅地造成により破壊の危機→国指定史跡

1983（昭和 58）年 宇垣匡雅氏らによる測量調査

1988（昭和 63）年 発掘調査（浦間茶臼山古墳発掘調査団（団長 近藤義郎））

#### 2. 浦間茶臼山古墳と畿内政権

浦間茶臼山古墳は特殊器台形埴輪、都月型埴輪と呼ばれる最古型式の埴輪群をもつ国内最古の前方後円墳の一基です。文様は全体のわかるものはありませんが、都月坂 1 号墳例のように右上がり単位を複数もつものではなく、さらに分割形の文様と見られるものを含むことから、特殊器台形埴輪のなかでも奈良県箸墓古墳と並ぶ古い一群ではないかと見られています。

浦間茶臼山古墳の最大の特徴はその墳形です。浦間茶臼山古墳は前方部が三味線のバチのように広がる形をしています。これは箸墓古墳に代表される最古型式の前方後円墳に特有の特徴です。さらに、北條芳隆さん（東海大学教授）の研究によると、浦間茶臼山古墳は箸墓古墳のちょうど 1/2 の相似形をしているというのです。まさしく、箸墓古墳の被葬者とともに古墳時代の始まり＝倭政権の成立に係わった吉備の王墓といえます。しかし、この古墳の周辺には母胎となる有力な集落や先行、後続する有力な墳墓が見つかりません。浦間茶臼山古墳の王が何者か、それまで吉備最大勢力だった足守川流域の勢力との関係は、この古墳をめぐる謎は尽きません。

### 【参考文献】

清野謙次 1925 「備前国赤磐郡平島村大字浦間古墳」『日本原人の研究』

北條芳隆 1986 「墳丘に表示された前方後円墳の定式とその評価—成立当初の畿内と吉備の対比から—」『考古学研究』第 32 巻第 4 号

宇垣匡雅 1987 「吉備の前期古墳— I 浦間茶臼山古墳の測量調査—」『古代吉備』第 9 集

浦間茶臼山古墳発掘調査団 1991 『岡山市浦間茶臼山古墳』真陽社

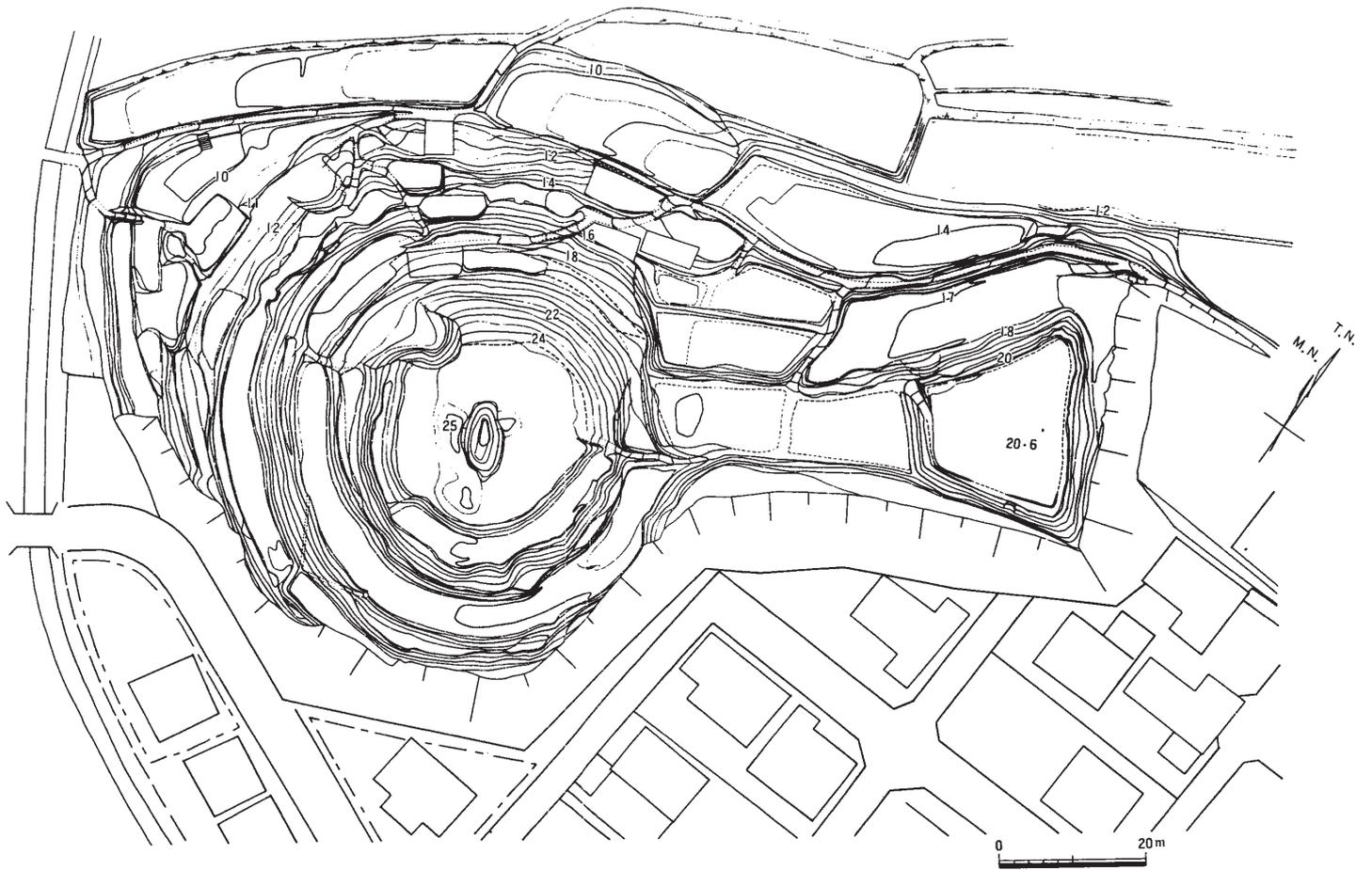


図1 浦間茶白山古墳 (1/1,200)

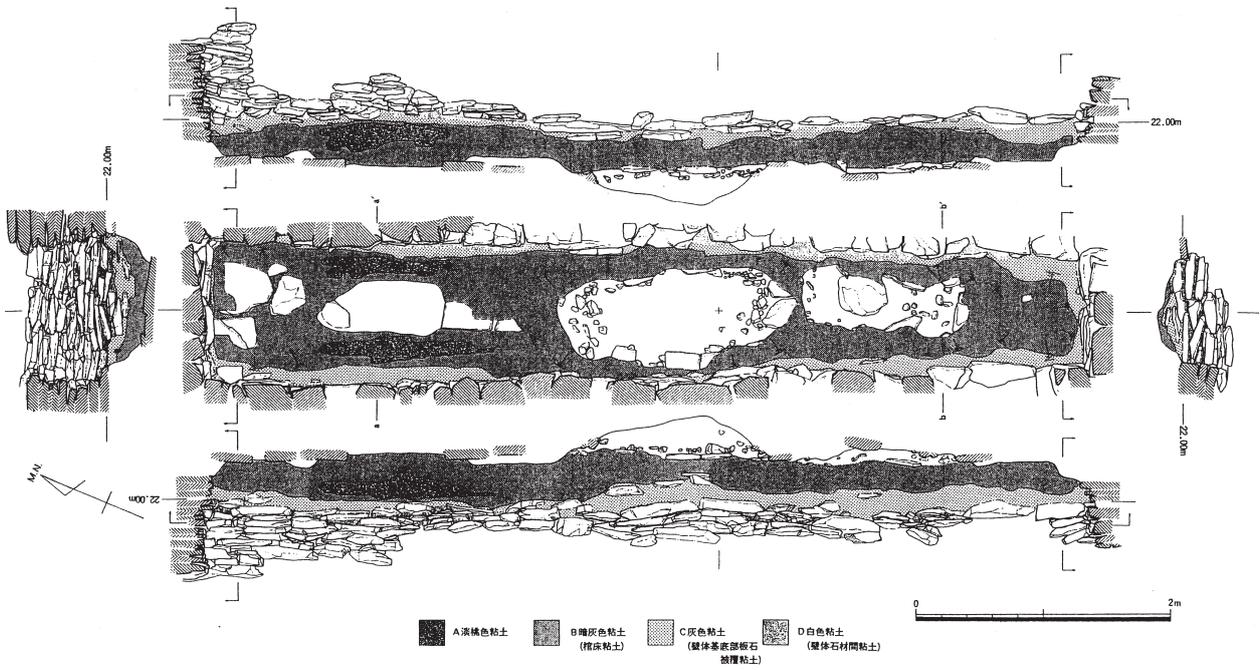


図2 浦間茶白山古墳の竪穴式石槨 (1/60)

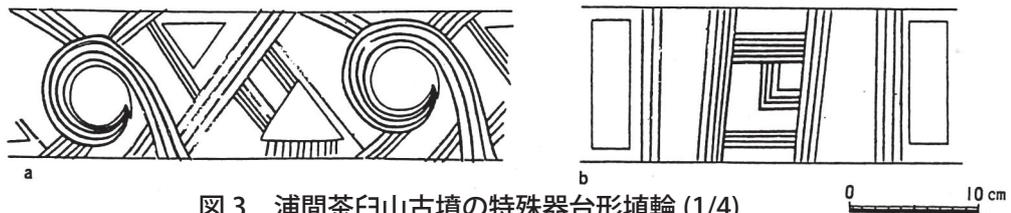
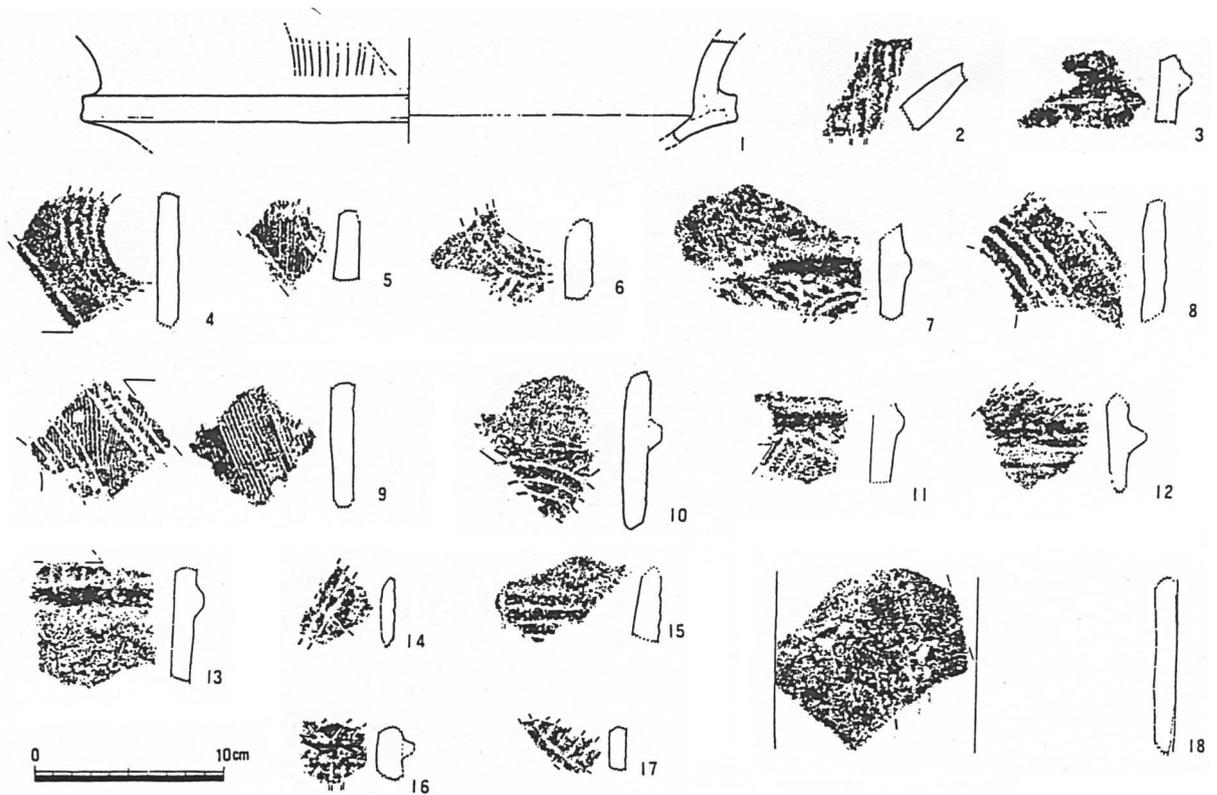


図3 浦間茶臼山古墳の特殊器台形埴輪 (1/4)

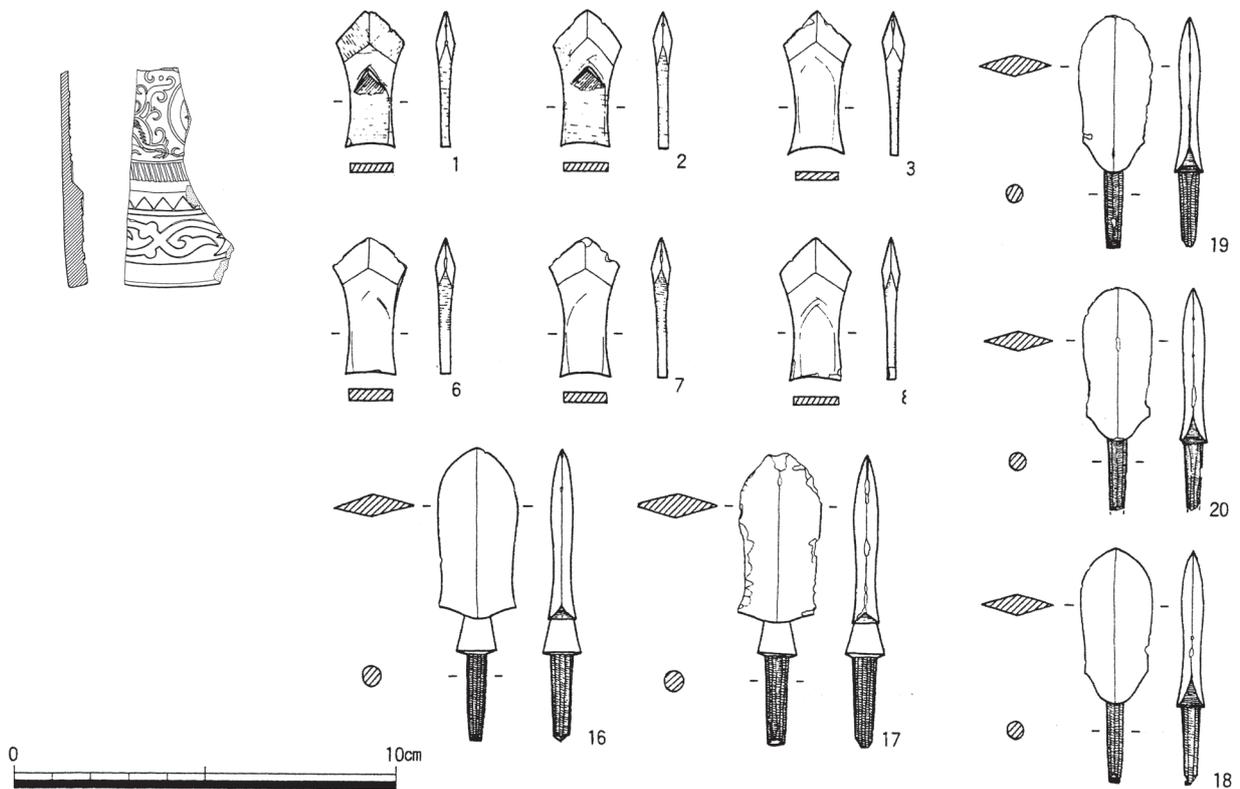


図4 浦間茶臼山古墳の鏡・銅鏃 (1/2)

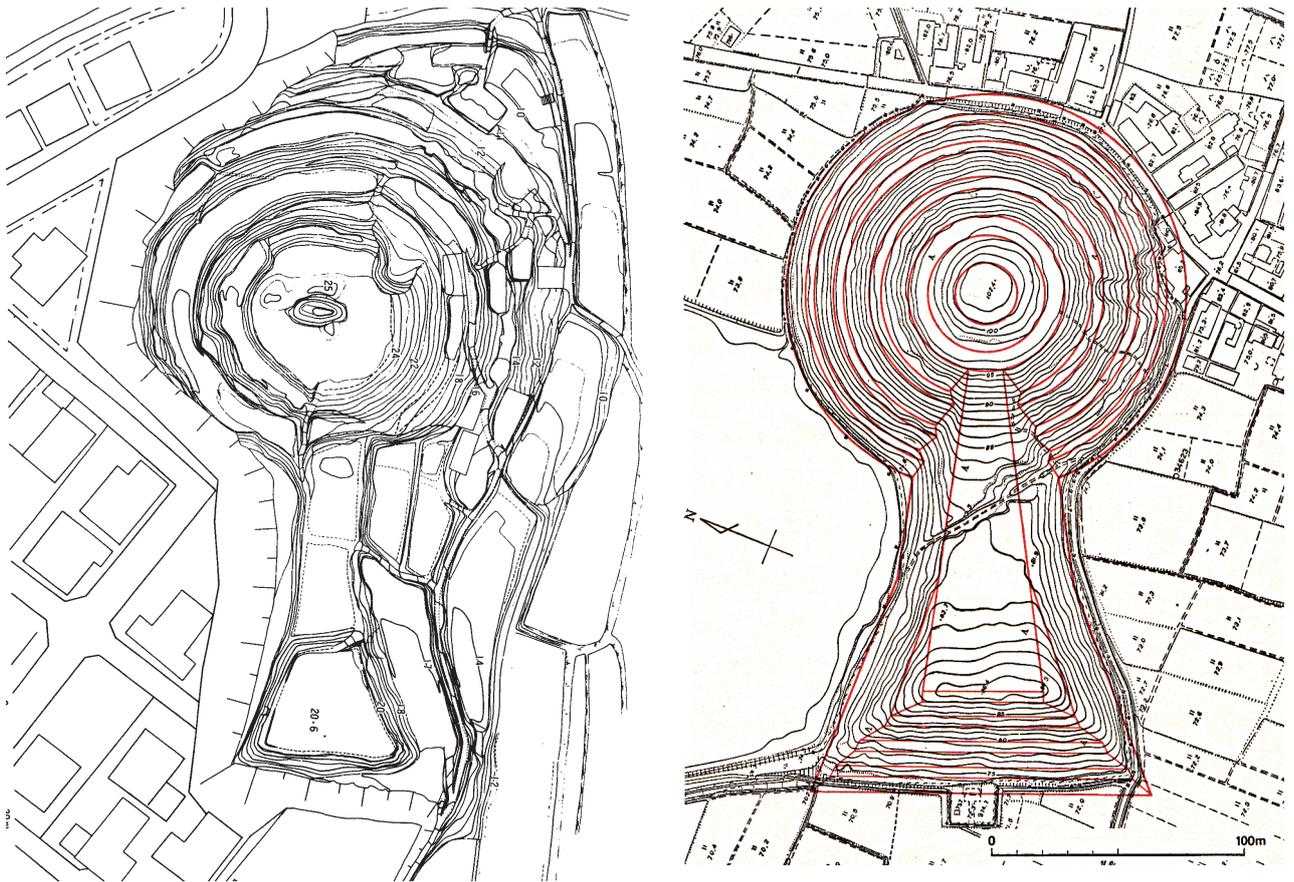


図5 岡山市浦間茶白山古墳(左)と奈良県箸墓古墳(右)

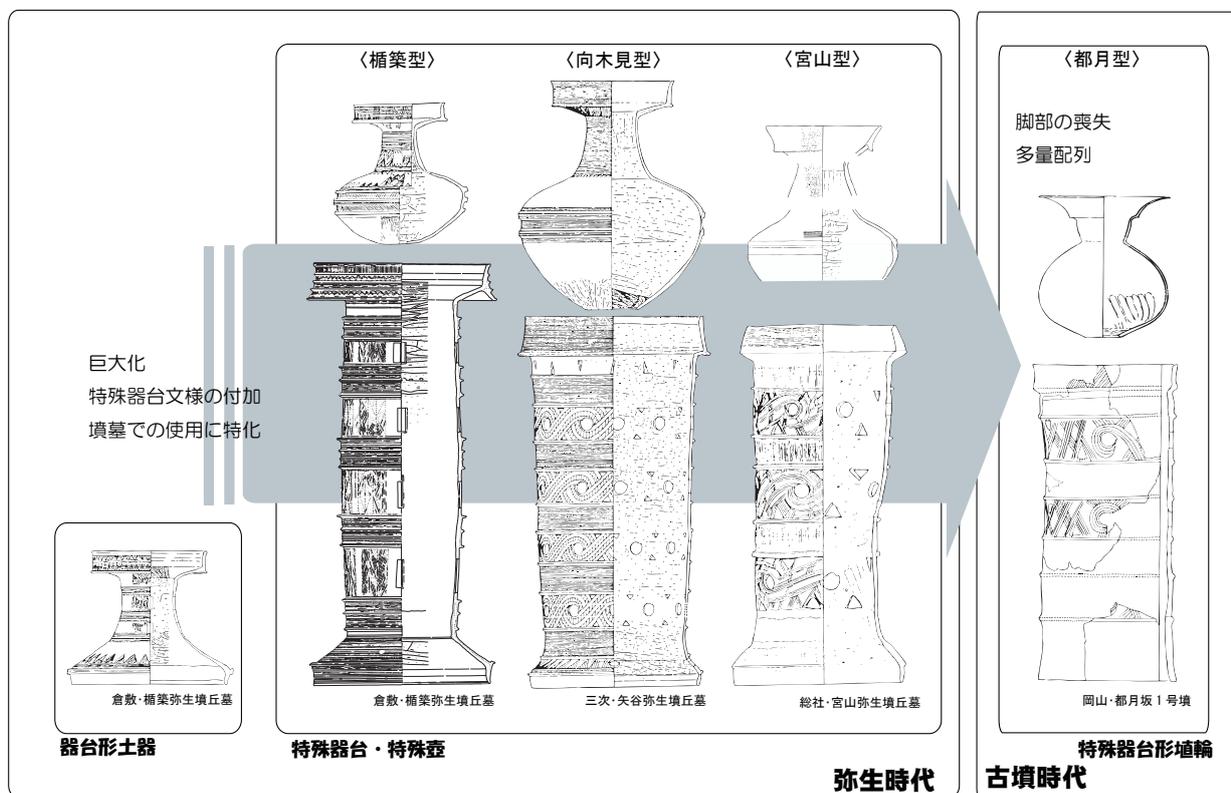


図6 特殊器台から特殊器台形埴輪へ